

## 2006 年沖縄の旅

### まえがき

今年、次女が大学を卒業し就職した。わが家では全員が働くようになった。家族4人が揃って旅行できるのは正月休みくらいとなった。それも、娘達の結婚を考えると今年が最後になるかも知れないと思い、読売旅行社高知支店の企画する「新春！めんそーれ沖縄3日間」というツアーに家族で参加することにした。

このツアーは、高知と那覇間を月、木、土曜日の週3回運行しているJTA(日本トランスオーシャン航空)を利用しているので、高知出発は13時25分、那覇出発は11:10分に限定される。2泊3日の旅とはいえ、沖縄を須観光できるのは1日半だけである。

家族での沖縄旅行は1998年4月以来2度目である。私と和恵は3度目となるが、沖縄を忘れてしまったという怜佳の希望を取り入れ沖縄が決まった。

### 旅の日程

月日	日程	宿泊先
12月30日 (土)	高知空港(13:25) 那覇空港(15:20～16:00) 世界遺産 首里城公園(16:20～17:20) (沖縄道) ホテル (18:10)	東京第一ホテルオキナ ワ・グランメールリゾート (沖縄市与儀)
12月31日 (日)	ホテル(8:00) 名護パイナップルパーク(9:00～9:40) 海洋博記念公園(10:00～12:00) やんばる亜熱帯園 (12:20～13:20) 万座毛(14:00～14:20) 琉球村(14:40 ～16:00) DFS ギャラリー沖縄(17:00～18:00) ホテル (18:30)	沖縄レインボーホテル(那 覇市松尾1丁目)
1月1日 (月)	ホテル(9:00) 那覇ショッピングセンター(9:20～9:50) 那覇空港(10:00～11:10) 高知空港(12:45)	

### 首里城公園

那覇空港から専用の大型バスで那覇市内にある首里城公園に移動。北部観光バスのガイドは金城さん。「かねぐすく」の「きんじょう」さん。沖縄で最も多い姓とのこと。

沖縄には3年前に沖縄都市モノレール「ゆいレール」が開通し、那覇空港と首里城公園間の12.9kmを結んでいる。「ゆいレール」の「ゆい」は「結まる」つまり「結いの心」が由来となっているとのこと。

沖縄に着いて最初の観光地は那覇市の首里城。首里城は、1429年から1879年までの約450年間にわたって栄えた琉球王国の政治・経済・文化の中心地であった。太平洋戦争沖縄戦で消失したが、1989～1992年の工事で復元された。

首里城を含む『琉球王国のグスク及び関連遺産群』は、2000年12月に日本で11番目の世界文化遺産に登録された。グスクとは城の意味。グスク及び関連遺産群とは、「首里城跡 園比屋武御嶽石門、 玉陵 識名園 今帰仁城跡 勝連城跡 座喜味城跡



守礼門の前で

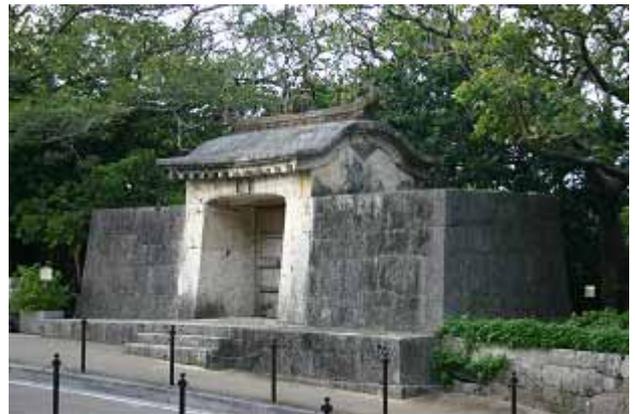
中城城跡 斎場御嶽 」。首里城公園内にあるのは首里城跡，園比屋武御嶽石門，玉陵である。

首里城公園の駐車場を出て最初に見学するのが守礼門(しゅれいもん)。二千円札に使われている守礼門をバックにして記念撮影するのが定番。私たちのツアーも，紅型(びんがた)と呼ばれる沖縄独特の染色着物を纏った女性と一緒に記念撮影をした。

守礼門を潜って首里城公園に入ると左側に世界遺産の園比屋武御嶽石門(そのひゃんうたきいしもん)がある。国王が首里城から出かける時に，道中の安全祈願を行った拝所である。

石門は神社でいう拝殿にあたるが本殿に相当する建物はなく石門の後ろに広がる森がそれにあたる。

石門の創建は尚真(しょうしん)王時代の1519年。沖縄戦で大破。1957年に復元され後に解体修復し1986年に完成した。木の扉以外は全て琉球石灰岩で作られていて，中国と日本文化混合の独特の造りになっている。



世界遺産の園比屋武御嶽石門

首里城の城郭に入る最初の門が歡会門(かんかいもん)。よろこびほこる門という意味。国王はじめ上級役人、外国使者等の男性専用の門。

第二の門が瑞泉門(ずいせんもん)。立派な、めでたい泉という意味。門のそばにある龍樋にちなんで名付けられた。

第三の門が漏刻門(ろうこくもん)。漏刻は中国語で水時計の意味。門の楼内の水時計と奥の広場にある日時計とセットで時間を計った。時刻は太鼓で知らせた。



正殿の正面



城郭に入る第一の門・歓会門



第三の門・漏刻門



第二の門・瑞泉門

第三の門・漏刻門を潜ると琉球王国最大の木造建設物であった正殿（せいでん）が現れる。中国紫禁城大和殿をモデルにしたと考えられている。中央の唐破風妻飾（からはふうつまかざり）の妻壁が華麗でかつ力強い印象を与える。その他、獅子や金龍、牡丹唐草などの彫刻で飾られている。

正殿の正面には龍をデザインした門柱が立っている。正殿大龍柱（せいでんだいりゅうちゅう）である。台座からの高さは4.1m。



首里城の石垣



正殿二階



正殿の大龍柱



首里城の石垣と虹

正殿二階は日常的には王妃や身分の高い女官たちが使用した「大庫理(うふぐい)」と呼ばれる空間。二階の「御差床」は国王の玉座として様々な儀式や祝宴が行われたところである。部屋の上部にはかつて中国皇帝から贈られた御書(ぎょしょ)の扁額(へんがく)が幾つも掲げられていた。「中山世土(ちゅうざんせいど)」の扁額(へんがく)は古い記録をもとに再現したものである。

私が首里(しゅり)城を訪れたのは3度目になるが、正殿を拝見できたのは今回が初めてであった。最初に訪れたのは首里城復元の起工式の年であった。二度目は修復作業中のためブルーシートで覆われていた。2000年の九州・沖縄サミットで首里城を社交夕食会の会場に使用するためである。



正殿二階にある中山世土の扁額



屋根の上の貯水タンク



東京第一ホテルオキナワ



立派な納骨堂



東京第一ホテルオキナワのロビー

那覇市から沖縄市へ

沖縄自動車道を北に走り「北中城」(きたなかぐすく)インターで降りる。

以前に来たときは、木造で瓦葺きの民家が多かったような記憶があるが、新しいRC造の2階建て民家が多い。本土ではプレハブ住宅が多いが、こちらでは強風に強いRC構造がほとんどである。

屋根の上には、どの住宅にも水タンクが設置されている。沖縄は、降雨量が多いが、大きな山がなく、珊瑚礁の石灰岩でできているため、保水量に乏しく慢性的な水不足にあるようである。現在はダムが建設され、水不足は解消されつつあるとのこと。

沖縄市と儀にある東京第一ホテルオキナワに着いたのは18時30分。運転手が途中で道を間違えたため、20分程度遅くなった。

ホテルに着くと、牧港ヒューム管工業(株)の中西氏がロビーで待っていてくれた。すぐに彼の



琉球料理の店「あしびjima」



中西氏と安次富氏と



東京第一ホテルの部屋で



名護パイナップルパーク



東京第一ホテルのバイキングの朝食



パイナップル畑

車に乗って、仲西氏が既に予約してあった琉球料理の店「あしび jima」(あしびじま)に行く。場所は、宜野湾市(ぎのわんし)の普天間飛行場入口のすぐ近く。

後から、技術担当の安次富(あしとみ)氏が来る。彼とは初対面かと思ったら、以前に東京の新橋で私の講演「土質のトラブル解消法」を聴講し、私と話をしたとのことであった。

牧港ヒューム管工業の造られている「ウォールT」の技術的問題点を説明しながら、焼酎と琉球料理をご馳走になる。

ホテルに帰ったのは9時過ぎであった。

#### 名護パイナップルパーク

6時30分よりホテルでバイキングの朝食。8時にホテルを出発して、名護パイナップルパークに行く。小さなパイナップル園をざっと見ただけで、店内に入れられる。パイナップルのワインやお菓子を試食させ、土産物を買わずため。

ワインも菓子も美味しいとは思えず、買う気にはならなかった。

#### 海洋博記念公園

海洋博記念公園は、昭和50年に開催された沖縄国際海洋博覧会を記念して、昭和51年8月に博覧会跡地に設置された国営公園。現在は沖縄の観光振興、特に本島北部の観光の拠点として中心的役割を果たしている。

今回の旅行のメインが海洋博記念公園。「世界一と世界初」をキャッチフレーズとした沖縄美ら海水族館は素晴らしい。水槽の亚克力板の厚さが60mで世界一であり、複数のジンベエ鯨を飼育して世界で初めて繁殖を試みているとのこと。巨大な水槽で2匹の大きなジンベエ鯨が他の多くの魚と一緒に泳ぐ姿には圧倒させられる。



世界一と世界初をキャッチフレーズにした沖縄美ら海水族館。巨大な水槽の中で泳ぐジンベエ鯨



沖縄美ら海水族館



イルカショーのあるプール



エメラルドビーチ



イルカショー



イルカショーの見物



エメラルドビーチ

水族館の下(西側)の海岸には、オキちゃん劇場、イルカスタジオ、イルカラグーン、ウミガメ館、海の保育園、マナティー館といった入場料無料の施設が隣接している。

オキちゃん劇場では、海洋博公園のアイドル・イルカのオキちゃんとその仲間たちによるイルカショーを見ることができる。ホームページによると、ショーが開催されるのは 11:50～12:05、13:50～14:05、15:30～15:45 の 1日3回となっているが、1月31日は、水族館の見学を終えた直後の11時からショーが始められたので、見る事ができた。

青い海をバックにしたイルカによるハイジャンプ、ユーモラスなダンスやコーラスなどはとても楽しいが、ハワイのシー・ライフ・パークのイルカショーに比べれば、規模が小さいので迫りに欠ける。

その他の施設は時間の関係で見物することはできなかった。

公園の北端にY字型の突き出したコーラル(珊瑚)ビーチ。全国でも唯一といってよい礁湖(ラグーン)内にあるビーチで、水質は“AA(もっとも良い)”と評価されている。コバルトブルーの海の色は、本当に美しい。

#### やんばる亜熱帯園

昼食は「やんばる亜熱帯園」。「やんばる」とは、「山原」のことで、沖縄島の北部山地の通称。「ヘゴ」の植物の原生林が残っているので



やんばる亜熱帯園のヘゴの原生林

有名。「ヘゴ」とは「シダ」の一種。高さが3m程度ある。巨大なワラビといったところか。幹の部分に小判の形をした模様がたくさん見られる。成長に伴って枝が落ちた跡とのこと。「金運」に恵まれるとのこと。食事は琉球料理のチャンプル。チャンプルとはチャンポンのことで、「豆腐と季節野菜の炒め物」のこと。ゴーヤ・チャンプル、フー・チャンプルなどがある。

#### 万座毛

沖縄に3度来て、3度とも立ち寄った観光地は首里城公園、海洋博記念公園そして恩納村(おんなむら)の万座毛(まんざもう)。サンゴが隆起してできた断崖「万座毛」の由来は、「万人も座する草原」のこと。最初の見所が「像の鼻」と呼ばれる絶壁。万座毛から見える巨大な建物は、「ANA万座ビーチホテル」と呼ばれるリゾートホテルである。NHKの朝ドラ「ちゅらさん」のロケにも使われた。



像の鼻と呼ばれる万座毛の絶壁



像の鼻の前で



後はANA万座ビーチホテル



琉球村

#### 琉球村

最後の観光地は恩納村にあるテーマパーク「琉球村」。昔の民家が移築され、当時の生活の様子が実演されている。沖縄の赤土粘土を使った陶芸工房、3Dのハブショーが見られる。3Dとは赤と青の色眼鏡を着けて観る立体映画のこと。



恩納村にあるテーマパーク「琉球村」



琉球村



出口近くで買った餅を食べながら一休み

#### DFS ギャラリア沖縄

31日の最後は、那覇市おもろ町にある免税店「DFS ギャラリア沖縄」によってショッピング。沖縄は日本に復帰したとはいいいながらも、本土の日本人に対しては外国人と一緒の扱い。沖縄レインボーホテルに着いたのは18時。

#### 最後の日

1月1日9時、那覇ショッピングセンターの送迎バスに乗りホテルを出発。ショッピングセンターで30分土産を買った後、那覇空港へ。

沖縄は日本国であるが、本土は外国と同じ扱いらしい。免税店で買い物ができる。11時10分発のJTA102便で高知に帰る。